

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	無
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃよろずきょうげん 株式会社萬狂言		
代表者職・氏名	代表取締役 野村万蔵		
制作団体所在地	〒 170-0013 東京都豊島区東池袋5-7-4 マーブル東池袋7階		
電話番号	03-6914-0322	FAX番号	03-6914-0327
ふりがな 公演団体名	よろずきょうげん 萬狂言		
代表者職・氏名	和泉流狂言野村万蔵家当主 九世野村万蔵		
公演団体所在地	〒 170-0013 東京都豊島区東池袋5-7-4 マーブル東池袋7階		
制作団体 設立年月	2011年9月		
制作団体組織	役職員 代表取締役 野村万蔵	団体構成員及び加入条件等 〈萬狂言〉団体構成員 30名 主な構成員／(名誉会長)野村萬 (幹事)野村万禄、小笠原由禰、能村晶人、野村万之丞	
事務体制の担当	他の業務と兼任	本事業担当者名	昼間 則子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	大矢 隆啓

制作団体沿革	かつて加賀前田藩で狂言棟取役をつとめた家柄で、約300年の歴史をもつ和泉流狂言野村万蔵家を母体とする。 1995年1月に「萬の会」を設立。以後、毎年東京をはじめ関東・北陸・関西・九州など全国各地で公演活動を展開する。海外公演にも多数参加。 2000年1月「萬狂言」に改め、2011年9月株式会社を設立。			
学校等における公演実績	●葛飾区小学生狂言鑑賞教室(1993年より毎年) 演目:「盆山」「口真似」「柿山伏」「附子」など ●川崎市立新作小学校(国語科)狂言ワークショップ°(2003年より毎年) 演目:国語教科書に準ずる内容(「柿山伏」など)のワークショップ ●十文字中学校狂言鑑賞教室(隔年) 演目:「盆山」「附子」など ●山崎学園富士見高校狂言鑑賞教室(1990年より毎年) 演目:「柿山伏」「附子」「蝸牛」「萩大名」など ○静岡大学教育学部塩田研究室依頼 プロとの遠隔授業(2019年) 「静岡市立永田西小学校6年生×狂言師」 子どもたちが演じる「柿山伏」についてプロが感想やアドバイスをしたり、子どもたちからの質問に答えるなど、双方向でコミュニケーションがとれるビデオ電話により遠隔授業を行なった。 ほか全国各地で多数開催。年間50ステージ以上。			
特別支援学校における公演実績	2009年 長崎県立虹の原養護学校(本物の舞台芸術体験事業) 2010年 広島県立広島中央特別支援学校(子どものため舞台芸術 巡回公演) 2018年 北海道美唄養護学校(文化芸術による子供の育成事業 巡回公演)			
参考資料の有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	有	
申請する演目のDVDまたはWEB公開資料		有		
※公開資料有の場合URL		https://youtu.be/PI1M2f25TrM		
※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード		ID:		
		PW:		
Aの提出が困難な場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料			
	※公開資料有の場合URL			
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:		
		PW:		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 萬狂言

対象	○	小学生(低学年)	○	中学生
	○	小学生(中学年)		
	○	小学生(高学年)		
企画名	狂言鑑賞教室～狂言って面白い！			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	【小学校・中学校 共通】 狂言「柿山伏」 狂言「附子」 【中学校のみ】 語「奈須与市語」 ※一部抜粋 公演時間(90分) ※途中10分休憩あり			
著作権	○	制作団体が所有	制作団体以外が所有する事項が含まれる	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	柿山伏(かきやまぶし)」 山での修行を終えた山伏が、帰る途中でのどが渇いてしまったため、近くの柿の木になっている実を無断で食べてしまいます。そこへ木の持ち主がやってきたので、山伏は見つからないように木のかげへ隠れますが、大きな体がかくれるはずがありません。その様子をみた木の持ち主は、山伏をからかうこととし、様々な動物の物まねをさせます。 内容が分かりやすく、動物の物まねから、オノマトペ(擬音語・擬態語)を楽しく知ることができる作品です。 「附子(ぶす)」 主人に留守番を頼まれた召使いの太郎冠者と次郎冠者。はじめはおとなしくしていましたが、主人が猛毒だから近づくなと言い置いていった「附子」が気になって仕方ありません。二人で協力して蓋を開けてみると、中に入っていたのは黒い塊。引きとめる次郎冠者の声も聞かずに、太郎冠者が一口食べてみると、それは砂糖でした。いつの間にか全部食べてしまった二人は、帰ってきた主人に怒られないよう、ある言い訳を思いつきます。 狂言の代表作の一つであり、一休さんのとんち話や『沙石集』にも類話がみられます。 台詞と動きから、狂言の面白さを十分に味わうことのできる作品です。 「奈須与市語(なすのよいちがたり)」※中学校のみ 『平家物語』の代表的な場面である、奈須与市が扇の的を射る様子を狂言の語からご覧いただきます。通常、15分ほどの演目ですが、まさに弓を射る場面のみを抜粋し、語りの言葉のリズムや現代語との違いに気づきながら楽しめるよう工夫します。国語科の学習において鑑賞する機会が多い平曲(琵琶)とはまた違った魅力を味わうことができます。			
演目選択理由	「柿山伏」「附子」は現在使用されている小学校国語教科書にも掲載がある演目ですので、掲載教科書を使用している学校においては、事前・事後学習に役立てていただくことができます。 狂言は少ない道具やセットで演じ、結末が明示されない舞台芸術です。そのため、「柿山伏」では実際には舞台に登場しない柿の木や柿の実がどんな形をしているのか、「附子」では黒い塊がどのようなものなのか、そして最後に追いかけられながら退場する登場人物たちがその後どうなったのか、子どもたち一人一人が「想像」しながら鑑賞することで、発想力を育むことができる演目であると考え、選択しました。また、中学校公演では多くの学校で『平家物語』の学習があるのに合わせ、中学校では奈須与市が扇の的を射る場面を語る狂言語「奈須与市語」の一部をご覧いただきます。平曲とは違った語りの技法を鑑賞することにより、内容への理解、関心が一層深まるとともに、同じ題材を扱っていても、表現の仕方によってイメージが変わるということが実感できることと思います。 そこから、狂言のみに関わらず、他の芸能への興味・関心につなげることができると考え、選択しました。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	【小学校・中学校共通】 事前ワークショップに参加した子どもたちは、狂言小舞「兎」の謡(うたい)を練習します。 本公演のはじめの解説の中で、謡を子どもたちが謡い、それに合わせてプロの狂言師が舞を披露します。 【小学校のみ】 本公演では「柿山伏」ででてくる、山伏の祈りのセリフ(ぼうろんぼうろん)を会場全体で練習します。今回鑑賞する演目ではありませんが、「茸」という演目を用い、事前ワークショップに参加した児童のうち数名にキノコ役として舞台上に登場(動きの練習は事前ワークショップで行ないます)してもらい、会場全体でキノコに向かって山伏の祈りのセリフを言ってもらいます。			
出演者	萬狂言一門から狂言師4名と、ナビゲータ役(俳優・芸人など)1名 野村万禄、小笠原由祠、能村晶人、炭哲男(以上、重要無形文化財総合指定保持者)、 野村万之丞、野村拳之介、山下浩一郎、河野佑紀、上杉啓太、石井康太、吉住謙、吉良博靖、杉山俊広、近藤信一、山本豪一、小笠原弘晃、清水宗治、中尾史生、炭光太郎、から編成(以上狂言師)。ナビゲータ役は、マセキ芸能社から1名予定。			
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者: 5 名 スタッフ: 2 名 合 計: 7 名		機材等 運搬方法 積載量: t 車 長: ハイエースワゴン m 台 数: 1 台	

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安	前日仕込み	無	会場設営の所要時間		2	時間程度
	午前開始の場合は時間によっては前日仕込みか当日早朝仕込みか相談あり。					
	到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
	10時30分	10時30分 ～12時30分	13時30分 ～15時00分	10分	15時00分 ～16時30分	16時30分
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。					
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ		15～100人 ※学校のご希望がある場合はご相談ください。			
	本公演		100～300人 ※目安であり、特に制限はありません。			
ワークショップ 実施形態及び内容	体育館や大教室を用い、体験をメインにしたワークショップを行ないます。 ○お話 狂言の歴史や特徴等について、分かりやすく説明します。 ○基礎稽古の体験 稽古始めの挨拶(正座でお辞儀)／狂言の美しい姿勢(まっすぐな姿勢と視線)／ 発声(遠くへ届く声を出す)／歩き方(摺り足)／喜怒哀楽の表現(笑う、泣く) ○本公演共演内容の稽古					
ワークショップ 実施形態の意図	狂言について、社会科や国語科で知識として学ぶ機会は多くあると思いますが、実際にどのような演技をするのか生でみる機会は少ないと思います。そこでワークショップでは、子どもたちによる狂言の動きや発声の体験を重視することにより、芸能としての狂言の本質を体験することを目的とします。 また、基礎稽古である正座での挨拶、美しい姿勢などは、狂言の演技に限ったものではなく、子どもたちの日常生活にもつながる所作です。ワークショップで学んだ内容を子ども一人一人が日常(家庭)に持ち帰り、「こうするときれいに正座ができるよ」「こんなことを知ったよ」と誰かに話したくなるような、他人とのコミュニケーションの一助になるワークショップにしたいと考えます。					
特別支援学校での 実施における工夫点	先生方と事前に密な打ち合わせを行ない、専門的なご意見をいただき、学校の児童生徒の状況にあわせて「視覚的に分かりやすい説明を増やす」「言葉での説明部分を膨らます」などの工夫をします。また、事前資料(たとえば、学校側で点字資料を作成するための資料提供)を充実させることも考えています。					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

れいわさんねんど

令和3年度

ぶん かげいじゅつ

こどもいくせいそうごうじぎょう

じゅんかいこうえんじぎょう

文化芸術による子供育成総合事業

—巡回公演事業—

よろず きょう げん
萬 狂 言

のうがくこうえん

<能楽公演>



ぶん かげいじゅつ こどもいくせいそうごうじぎょう じゅんかいこうえんじぎょう
「文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—」

わ くに いちりゅう ぶん かげいじゅつだんたい しょうがっこう ちゅうがっこうなど こうえん こども すぐ ぶたいげいじゅつ かんしょう
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

じぜん こども じつえんしどうまた かんしょうしどう おこな じつえん こども
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



番組

解説

狂言「柿山伏」

登場人物 山伏

柿の木の持ち主

狂言「附子」

登場人物 太郎冠者

次郎冠者

主人

質問コーナー



「柿山伏（かきやまぶし）」

山での修行を終えた山伏（特別な力をもったお坊さん）は、帰る途中でのどがかわいてしまい、近くに柿の木があるのを見つけると、木に登り柿の実を盗んで食べてしまいます。そこへ柿の木の持ち主が現れたため、山伏は見つからないように急いで木のかげにかくれますが、大きな体がかくれるはずがありません。柿の木の持ち主はそんな山伏をからかってみることにして……。

「附子（ぶす）」

主人に留守番をたのまれた召使いの太郎冠者と次郎冠者はじめはおとなしくしていましたが、猛毒でそちらから吹く風に当たっただけでも死んでしまうから近づくな、と言って主人が置いた「附子」が気になって仕方ありません。二人で協力してふたを開けてみると、中に入っていたのは黒いかたまり。引きとめる次郎冠者の声も聞かずに、太郎冠者が一口食べてみると……。

◆ 狂言の豆知識 ◆ 小道具について

ほとんど登場人物の台詞や動きだけでお話がすすむ狂言ですが、いくつかの小道具が使われることもあります。



● 扇(おうぎ)

狂言で使う小道具の中でも、色々なものに見立てて使われるのが扇です。あおいだり、のこぎりとして木を切ったり、刀などの武器にもなります。



● 葛桶(かずらおけ)

狂言ではよく使われる道具で、黒い桶にふたが付いています。そのままイスのように腰をかけたリ、ふたを盃に見立ててお酒を飲む道具としても使います。

団体紹介

よろずきょうげん 萬狂言

萬狂言とは、狂言方きやうげんかた和泉流わいせんりゅう 野村万蔵家のむらまんぞうけ一門の呼び名で、約300年の歴史と伝統を受け継ぎ、その昔は北陸の加賀前田藩のお抱えでもありました。

現在の当主(代表のこと) 九世野村万蔵を中心に、東京・北陸・関西・九州を拠点として、公演活動や狂言の稽古場の開設、全国の小中学校での鑑賞会やワークショップなどを行っています。

知ってますか? ~10月1日は「国際音楽の日」です~

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	F84	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽	ブロック	F	区分	A区分
公演団体名	萬狂言				制作団体名	株式会社 萬狂言			

① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談
控室について	必要数 *	1室	条件		舞台袖を装束着替えスペースで使い、それとは別に、体育館になるべく近い1室を確保お願いしたい。			可
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *			バン	1台			不可
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細							
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			バン1台				可
	搬入車両の横づけの要否 *			要				可
	横づけができない場合の搬入可能距離 *			100m以内				可
	搬入経路の最低条件			・舞台ステージ袖(向かって左側)近くが望ましい。 ・できる限り階段のない経路が望ましい。 ・屋根のある経路が望ましい。				可
	理由			舞台道具や装束ケースは手持ちで運べるが、時間節約とスムーズに搬入するため。				
	設置階の制限 *			問わない				可
	搬入間口について 単位:メートル	幅	2m	高さ	2m		可	
	WSIについて	参加可能人数	15～100名程度					可
学年の指定の有無 *		なし	指定学年 *				可	
所要時間の目安 単位:分		90分程度					可	
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間		※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。					
	鑑賞可能人数		～300名程度(特に制限はありません)					可
	舞台設置場所 *		体育館のステージ上					可
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル	幅	9m程度	奥行	4.5m程度	高さ	6m程度	可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *		要				可
		舞台袖スペースの条件 *		向かって左側、なるべく広く使いたい				可
		緞帳 *	要	バトン *	要		可	
	遮光(暗幕等)の要否 *		要	理由	日差しが入って見えにくいなどあれば使用			可
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動 *		要	※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。			可
		ピアノの事前調律 *						
	フロアを使用する場合の条件		バスケットゴールの設置状況 *		格納されていれば可			可
	公演に必要な電源容量		学校の範囲内	※主幹電源の必要容量			可	
	その他特記事項							応相談
	ステージがない場合でも実施は可能です。							可

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	2m	高さ	2m
搬入車両の横づけの可否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		100m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

